

連携を軸とした生徒指導上の問題解決に向けた取組

佐渡地区生徒指導部長
金井小学校 後藤 修治

1 はじめに

佐渡地区は、児童生徒数が300人規模の学校（中規模校）から20人程度の学校（小規模複式校）まで、地域によって学校規模が様々である。また、商店街、公共施設等が集まる中心部から農村・漁村部と地域性も様々である。このような地域・学校環境の中で、佐渡市は中学校における不登校発生率が全県に比べ高い。これは、地域における人間関係の希薄化が進んでいることや、小規模小学校で育った児童が中学校に進学しうまく人間関係を築けないこと等、人間関係づくりに起因する部分大きい。

そのため、人間関係づくり能力の育成と小・中・関係機関との連携をキーワードとして各校が生徒指導上の問題解決に取り組んでいる。

2 取組の実際

(1) 全島一斉あいさつ運動の実施

あいさつは、人限関係づくりの基礎となるという考えの下、昨年度から「深めよう絆県民運動」の一環として、10月の強調月間中に島内の小中学校が一斉にあいさつ運動を行っている。各小中学校の生徒会・児童会が中心となり、場所や方法を考え、小・中児童生徒が交流しながら地域に出かけあいさつを行っている。

金井中学校区では、今年度、各小中学校の校門、佐渡病院玄関前、市役所玄関前で実施した。「あいさつをすると、あいさつを返してくれたり、『ごくろうさん。』という言葉が掛けてくれたりしてうれしかった。」という感想をもった子どもが多く、地域の人との絆を深めることができる活動であった。

(2) 小中の連携、学校と関係機関等の連携による実態と対策の共有化

ア 不登校を中心とした学校内における問題について

11月に佐渡総合教育センター主催の生徒指導研修講座が行われた。佐渡地区の全小中学校の生活指導主任、生徒指導主任と不登校訪問指導員が参加し、講座の中で中学校区ごとにグループを作り情報交換を行った。

中学校区の児童生徒の不登校の現状や、原因の分析など相談員の方も一緒に入り情報交換ができ、今後の連絡・連携体制を確認することができた実りある会であった。

イ 校外生活における問題について

佐渡地区では、学警連事業として4つのブロックに分かれて年1回の研究会（情報交換会）を実施している。今年度は11月に実施し、各小・中学校の校の生徒指導担当者が、校外生活における児童生徒の実態と課題、課題解決に向けた取組をレポートにまとめ報告し、情報交換、意見交換を行った。また、PTA会長や警察署生活安全課長、スクールガードリーダー、主任児童委員等も参加し、情報提供をしてもらい、問題行動の未然防止や解決に向けての方策について協議を行った。

他校の取組について知ることができ参考になると共に、教職員の目が行き届きにくい校外生活の情報を提供してもらえる貴重な会であった。

3 おわりに

佐渡市は、来年度以降、学校の統合が急速に進んでいく。今後は、中学校進学に伴う人間関係づくりと併せて、統合に伴う良好な人間関係づくりができる児童を育成していかなければならない。